

この度は章光堂百周年記念行事を開催されましたことを、心よりお祝い申し上げますとともに、ご招待いただき大変光栄に存じています。

式典は附属中学校の生徒の皆さんによる松山高校の校歌斉唱で始まり、附属中学校のお心配りに感動しました。こうして久しぶりに章光堂に座ると、過ぎし日のことが走馬灯の如く、次々によみがえってまいりました。七十数年前、この講堂で挙行された入学式で、高校生活の第一歩を踏み出した私たちは、その後も音楽会や三日にわたる演劇祭、インターハイの選手壮行会、応援団結団式等々、各種行事が開催されるたびに講堂に集合していましたが、なぜか講堂に入ると身の引き締まる思いがしたことを、昨日のことのように思い出されました。

昔日の面影というと古びたイメージがありますが、章光堂は少しも変わらず、むしろ昔よりも新しく美しくなっていることに卒業生は驚いています。松山高校は閉校後、昭和三十四年より五年ごとに、附属中学校のご好意により、章光堂で創立記念大会を開催させていただいてきました。が、その美しさと威容を誇る章光堂を「心の故郷」として懐かしんで、全国から参集した同窓生があたりを見回して「章光堂ってこんなに綺麗だったのかなあ？」という声を

屢々耳にしました。その都度、実は附属中学校の皆様のご尽力でこのように美しく維持されていると説明すると、一同納得し、深く感謝していました。附属中学校の皆さんも同じ講堂で入学式を行ない、同じ校内で学んでおられると思うと、親近感がわき、同窓生という感を強くしています。

また今回、松山高校の正門があつた南西の角地も、見違えるように美しく整地されました。門石柱やソテツ、マツ等はそのまま残し、中村草田男先輩の記念句碑は門柱と並んで外側に、校歌、寮歌、柔道部歌の記念碑は門の内側、西側の垣根に沿って整然と建立していただいています。中村先輩の句碑は外部に面しているせいもあり、通行人や散策する人が立ち止まって読んでいたり、中には手を合わせていく人もいたりするとお聞きしました。

現在は愛媛大学の所管になっているのにも拘わらず、このように章光堂、正門、卒業記念碑等を立派に維持していただいております。青春を偲ぶ様子がともなっていることは、誠に有難いことと思っております。これも偏に、愛媛大学当局をはじめ、附属中学校教職員、生徒の皆様のご尽力によるものと、同窓生一同衷心より深く感謝申し上げます次第です。厚くお礼申し上げます。

松山高等学校 同窓会事務局長 秦 敦